

平成29年度 日本大学スポーツ科学部個人研究費 研究実績報告書

所属: スポーツ科学部 競技スポーツ学科

資格: 教授

氏名: 青山 亜紀

研究課題		トレーニング学における我が国のピリオダイゼーション理論の主要概念についての理解の歴史の変遷に関する研究
報告の概要	研究目的 及び 研究概要	<p>研究目的 トレーニングピリオダイゼーション研究は、ロシア語による原著版からの翻訳過程に問題が生じたことでその厳密性がしだいに薄れ、主要概念に関わる術語について未だ統一見解がみられていないという問題がある。そのため、ピリオダイゼーション理論についての正確な理解を阻み、競技力向上のための適切な方向性のトレーニング計画立案を困難にしている状況にある。そこで本研究では、ピリオダイゼーション理論の理解についての歴史の変遷をたどり、問題点を明確にすることで主要概念を再構築することを目的とする。</p> <p>研究方法 トレーニングピリオダイゼーション理論についての関連文献(ロシア語版・翻訳版)をもとに、ピリオダイゼーション理論発展の歴史的経緯について分析を行い、その主要概念について再考する。</p>
	研究成果	<p>近年のトレーニングピリオダイゼーション研究の第一人者であるウクライナの研究者プラトーフによる関連文献の分析を行い、プラトーフが提案しているトレーニングピリオダイゼーション理論について検討した結果、以下のことが明らかとなった。</p> <p>スポーツ科学の顕著な発展により、研究領域や研究課題の細分化が進んだことで競技スポーツに関わる要因も大きく変化した。そのため、競技力向上に関する理論を発展させることが必要であることは事実である。しかし、現在展開されているトレーニングピリオダイゼーション理論は、マトヴェイエフ理論に端を発したトレーニングピリオダイゼーションの本質、すなわち「競技力の全体性」を考慮した検討が行われていないものが多いことが明確となった。その中でプラトーフの提案するトレーニングピリオダイゼーション理論は、マトヴェイエフ理論の本質を継承したうえで、オリンピックを目指す現代のトップ選手に最適なトレーニング計画の可能性について検討していることが明らかとなった。</p>
研究業績	・論文および著書 著者名・論文標題・雑誌名・査読の有無・巻・発行年・ページ数	①論文: 青山亜紀 「ロシア語圏のトレーニングピリオダイゼーション理論発展の経緯」 日本大学スポーツ科学研究(査読なし)【第2巻掲載予定】 2018年3月末発刊
	・学会発表等 発表者名・発表標題・学会名・発表年月日・発表場所	なし
	・その他 *学会・競技団体報告書など 著書名・標題・掲載誌名 発表年月・発行所 *講演会, 研究会, 研修会, セミナー等での講演発表 発表者・発表年月・題目名・講演会名 *社会貢献活動等	①翻訳: 青山亜紀 「オリンピックスポーツにおけるアスリートの多年準備構造の基礎」 コーチング学研究(査読なし)【第31巻 第2号掲載予定】 2018年3月末発刊